

女川町復興まちづくり住民説明会（清水仮設集会所） 議事録

日 時：平成24年2月4日（土） 16：00～18：00

場 所：清水仮設集会所

対象者：新田仮設②入居者

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 残っている家をリフォームしようとしている。川のすぐ脇にある。川はどんな整備を計画しているのか。
- A. 県では川の拡幅を予定している。堤防のすりつけ幅を広げて全体の幅を42メートル取るようなことで計画している。1年以内には具体的になる。買収等の場合も考えられるので協力してほしい。建設課で県の案をみることができる。
- Q. 原子力センター付近の狭いところに堤防(ダム)を造って津波を防げないのか。
- A. 道路に防潮堤の役割を持たせようと考えている。防潮堤を造ると、超えた時水が抜けなくなるので、ここを全部埋めることによって土地を有効に使える方法を町としては考えている。
- Q. 中学校の登り口付近の土地がどうなるのかは、いつわかるのか。
- A. 今のところまだ道路の幅や高さを完全には決めていないので、微妙なところ。一中側の一部分については、盛土して住宅地にするという考えを持っている。詳細はこれから。決まり次第示してく。
- Q. 国立の町を見た。広い歩道と自転車レーンがあり、このように整備することを提案したい。
- A. そういう整備が望ましいと思う。
- Q. 復興事業の間は、下水道が使えなくなる時期はあるのか。
- A. 現在下水は応急でつないで使用している。工事の際は、仮管を入れる等の対策を立てるので使える。石巻の下水処理場は、2年半で復旧を急ぎたいとの県の計画。
- Q. JRについてどうなのか。清水に駅ができるというのはどうなのか。
- A. JRでは原形復帰が基本。新たに伸ばすというのは自分の方お願いしますという話。将来の運営等を考えると伸ばすのは難しい。
仙石線と石巻線は一体という文書をもっているなので2年くらいかかるが復旧できる。
- Q. 陸上競技場の公営住宅は、いつくらいに完成の予定なのか。
- A. 概ね4月から始まって1年半後までに何とかしたい。
- Q. 災害公営住宅は抽選になるのか。
- A. そうなると思う。ただし、1回目ができるから、次の完成はそれほど間を置かずに整備していけるようにやっていく。
- Q. 仮設住宅に風除室を付けることはできないのか。冬は凍結したりしてドアが開かない不便があるし、地

震が来たときに逃げられるか不安。

- A. 仮設住宅は県のもので、町が勝手に手をつけることはできない。問題については早く対応していただけるようにいろいろなところに働きかけていく。

以 上